

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 15 章 パート 1

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するの必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

いよいよ黙示録 15 章、患難時代の真っ只中です。

黙示録 6 章から 19 章までは、そのほとんどが地上での出来事ですが、時々天国に行くという“休暇”が私たちに与えられ、今夜のように天国で起こっていることを見せてもらえます。

それには、とても大きな目的があるからです。

15 章は黙示録の中で一番短い章で、たったの 8 節。

でも任せて下さい。

私が長く延ばしてみせます。

さて、16 章では遂に最後の裁きが始まります。

7 つの封印の裁き、7 つのラッパの裁きに続いて、次は 7 つの鉢の裁き。

これが最も残酷な激しい裁きで、これまで見てきた何よりも厳しくて激しい。

だから、これらの鉢がぶちまけられる前に、主は 15 章で、私たちにとても重要な視点を与えているのです。

これが、大きな目的です。

主は私たちが天国へ連れて行き、そこで起こっていることを理解させます。

それがなければ、この時点で私たちは思うでしょう。

「何てことだ… まだ裁きが続くのか…」

「主よ、これらはいつ終わるのですか…」

それで、16章での裁きの必要性を理解するために、15章では天からの視点で見えていきます。

また私は、天にもう一つの巨大な驚くべきしるしを見た。

七人の御使いが、最後の七つの災害を携えていた。

神の激しい怒りはここに窮まるのである。(黙示録 15:1)

世の中を見渡せばわかる通り、世には病と罪、闇と墮落がはびこっています。

皆さんも目撃したり、読んだりしているでしょう。

テレビや雑誌を見て、言いたくなることがあるでしょう。

「ちょっと待って！」

「主よ！なぜ彼らを撃ち殺さないのですか？彼らは、あなたの御子を嘲笑い、若者たちを墮落させ、堂々とサタン崇拝を広めています。どうして彼らに何もしないのですか？」

「主よ！なぜクリスチャンの子供たちが連行され、逮捕されるのですか？」

私たちも注意しないと、御父のご性質について、大きな誤解をする可能性があります。

あなたの同僚や近所の人たち、クリスチャンでない人たちは、そのことについて明らかに全く間違った解釈をしています。

彼らはこう言います。

私たちも時々、このような間違いをすることがあるのですが、

「きっと神様は、マリリン・マンソンに無関心なんだ。」

或いは、現在学校や地域ではびこっている、異様でめちゃくちゃな考え方や行為に対して、

「多分主は、気にも留めないんだろう」

「きっと、主にはできないんだ」

「主には力がないんだ」

「主は、こんな不正や墮落には手出しができないんだ」

また、未信者の友人たちや隣人たち、そして恐らく多くのクリスチャンも思っているのが、

「きっと主は、男の子はこんなもんだって思っているんだろう」

「これも人生だ」

「もしかしたら、主も了解しているのかも」

「僕たちが真の自分を見つけるために、この薬や、この行為をやっていることを、主も賛成してくれているのかも」

でも、皆さんが会話している相手は、マンソンのようなサタン崇拝のロックを聞いたり、様々なニュースを見た時に、

「もしあなたの神が聖で、何でもできるのなら、どうしてこんなことが起きるんだ!?!」

という問題と葛藤しているのです。

黙示録 15章は、これらの人々に対して、実際には何が起きているのか理解するためのヒントを与えてくれます。

1節の「窮まる」の部分にアンダーラインを引いて下さい。

そして、創世記 15 章を開いて下さい。
聖書の一番初めの書。
ここは、理解する上でとても重要な箇所です。

神がアブラハムに語りかけています。

そこで、アブラムに仰せがあった。

「あなたはこの事をよく知っていなさい。あなたの子孫は、自分たちものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。」(創世記 15:13)

アブラハムの子孫は、自分たちの土地ではない場所で 400 年過ごします。

しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。(創世記 15:14)

あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう。

(創世記 15:15)

そして、四代目の者たちが、ここに戻って来る。(創世記 15:16)

子孫たちは、この会話がなされた約束の地に、4 世代後、400 年後に戻って来るというのです。

いいですか？

神がアブラハムに言っているのは、「あなたに子孫が与えられて一つの民族となるが、彼らは 400 年間他の国に行き、そこで奴隷となり苦しめられる。

しかし、あなたの子孫を苦しめる国を、わたしが裁く。

そしてアブラハム、あなたの子孫は、多くの財産を携えてここに戻って来る。」

その通りのことが、出エジプト記の中で起こりました。

人々は、エジプトで何年間捕われていましたか？

400 年間。

彼らは奴隷となり苦しめられましたが、数々の災いがパロとエジプト人に襲いかかり、その結果、彼らは山のような財産と共に解放されました。

まさしく神が言った通りです。

皆さんに本当に理解して欲しいのと、先ほど話したような混乱している人たちに伝えて欲しいのは、次の 16 節。

ここで神は「なぜか」を説明しています。

「それはエモリ人の咎が、そのときまでに満ちることはないからである。」

(創世記 15:16)

エモリ人。

彼らはカナンの文明を持ち、神が、アブラハムとその子孫に与えると約束した地に住んでいました。

「この地はわたしのものだ。よって、これをあなたに与える。」と言って、神は何をしたでしょう。

彼らがエジプトから出た後、神はヨシュアに言いました。

「エモリ人を聖絶せよ。」「カナンの地にいる者、全てを聖絶せよ。」(申命記 20:17)

昨日のスタッフ会議で、ある女性からこれについて質問がありました。

「残酷過ぎませんか？」

とても良い質問です。

神はヨシュアとユダヤ人に、「全ての男、女、子供、全員を聖絶して、約束の地を手に入れなさい。」と命令しています。

「これって、本当に正しい事なの？残酷過ぎ。厳しすぎると思う。」

ちょっと待って。よく見て下さい。

神はアブラハムに言いました。

「わたしは、エモリ人が悔い改めるために400年の時間を与えよう。」

神は驚くほど優しく、忍耐深い神です。

そういうお方が、「エモリ人が行いを改めるまで、400年の期間を与える。

だからアブラハムよ。あなたの子孫、ユダヤ民族は、この400年の間エジプトに行くことになる。それは、彼らの咎がまだ満ちていないからだ。

彼らに悔い改めの機会を与える。わたしの忍耐はまだ尽きていない。」

考えてみて下さい。

400年といえば、すごい長期間ですよ。

この国（アメリカ）は、建国してからたったの200年。

私たちの国の年齢の2倍の長さです。

神はこれらの人々が、あらゆる悪や腐敗した行動を悔い改めるのを、忍耐強く待ち続けました。

でも、彼らは悔い改めなかった。

遂にエモリ人の咎はどうなりましたか？

『窮まった』

それで神は、「もう十分だ。彼らを聖絶せよ。」と言ったのです。

神は残酷だからそうしたのでしょいか？

違います。

想像力を最大限に働かせて聞いて下さい。

多くの人が、この事で混乱していますから。

カナン人、エモリ人は、もう破滅していました。

彼らは既に呪われ、非常に病んでおり、終わっていたのです。

神が彼らを絶滅させたのは、単に苦しみから解放しただけです。

つまり、こういう事です。

この町の私の家で、私と家族、クリスティ、ベニー、メアリー、タンブルと一緒に食卓を囲んでいます。

すると突然、家の中に、牙を剥いて口から泡を吹き出している、熊のような犬が飛び込んで来た。

目は火のように血走っている。

この犬は、明らかに狂犬病に侵されていて、死にかけ、もう終わっている。

そしてクリスティに突進し、彼女は悲鳴を上げる。

でも私は、「クリスティ、愛してるよ。大声を出しちゃいけない。動物にも権利があるんだ。」

犬はクリスティに噛みつき、彼女の腕からは血が吹き出し、脇腹の肉は引き裂かれた。

その時私は、「あら、これはちょっと良くないね。でも、動物にも権利があるから、僕たちはすぐに裁かないように、慎重に注意深くならなきゃいけない。」

そうこうするうちに、クリスティは食卓の前で倒れて死亡。

犬は次に、メアリーを襲って噛みつく。

私は、「ちょっと気にはなるけど、でも、動物にも権利があるからね。偏見を持って、一方的に判断しないことだ。狭い考え方ではいけない。犬には何か障害があるから躰をしよう。子犬時代に何かあったんだろう。きっと辛い経験をしたんだ。」

そして、メアリーも噛み裂かれて死亡。

ベニーはテーブルの周りを逃げ回るが、犬は彼にも跳びかかって襲っている。

その間私はただ座って、「これは、この犬の不安の表れなんだ。僕たちも心を開いて…

これは、表現の自由だから。みんな、それぞれに権利があることは、憲法で保障されている。何と言っても、誰もが自分の生き方を選ぶ自由があるんだ。」

こんな風に、もし私がただ座って、家族が襲われるのを見ているだけなら、タンブル（妻）は気が狂ったように怒りますよ。

とんでもないことです。

狂犬病の犬は既に死んでいるのです。

終わっています。

私がすべきことは、まだ病気に侵されていない家族を守ること。

すぐにガレージからバットでも何でも持って来て、その犬を殺すのが正当なことです。

その犬は病んでいて、死んだも同然、望みがないのだから。

それに家族を愛する父親なら、家族を守る責任があります。

いいですか。

エモリ人は400年以上腐敗し続け、終わっていました。

だから神には、「わたしは彼らを聖絶し、まだ侵されていないわたしの子供たちを守る」という権利があるのです。

そして皆さんがすべきことは、人々が神の民のこういった残酷な話を読んで、「神が愛なら何てことを！」などと言う時、このように伝えることです。

「神は、彼らを聖絶するまでに400年忍耐されたんだ。

次から次へと悔い改めの機会を与えたけど、彼らは悔い改めなかった。

それで、彼らの病が重症化したために、神は愛をもって、『わたしは彼らを苦しみから解放しよう。そして、わたしの子供たちを守る。もうこれ以上見逃す訳にはいかない。もう十分だ。』と言われたんだ。」

“エモリ人の咎が窮みに達した”

私がこれを強調するのには理由があります。

表面的にしか聖書を読んだことのない人や、たまに日曜日に教会でメッセージを聞く人たちが、「神は残酷だ。」と言うのです。

だから皆さんは、神がどれほど忍耐深いかを説明しなければなりません。

しかし神の忍耐を、神が無関心だとか、罪を承認しているなどと、はき違えてはならない。

神の裁きはゆっくりと、しかし確実にもたらされます。

本題に戻って、黙示録 15 章。

人々は罪に罪を重ね、患難の際中でさえ、ほとんどの人間が、神に対して拳を振り上げて呪います。

遂に神は、「鉢は満たされ、激しい怒りがいよいよ下される。」

このことが理解できていれば、16 章を読んだとしても、ひるむことも、「神よ！なぜこんなことを!？」

と言うこともありません。

そうではなく、天国でこれらのことを見ている人たちと一緒に、「いつまでですか、主よ！あなたは本当に忍耐深いお方。主よ。手を下される時ではありませんか!？」

するとなんと、主はそうされるのです。

ヨハネは天国で、神の怒りが窮まり、裁きが下されようとしているのを見ます。

私は、火の混じった、ガラスの海のようなものを見た。

獣と、その像と、その名を示す数字とに打ち勝った人々が、神の立琴を手にして、このガラスの海のほとりに立っていた。(黙示録 15:2)

同時にもう一つ、彼が見たのは、ガラスの海に立っていた人たち。(＊前田訳)

ギリシャ語では、はっきりと書いてあります。

彼らが立っているのは、ガラスの海の“ほとり”ではありません。

彼らは、患難時代の中で打ち勝った人々、命を落とすことを選んだ人たちです。

携拳の後、この人たちは、皆さんが伝えたことを思い出し、7 章に出て来る 144,000 人のユダヤ人伝道師のメッセージを聞き、エルサレムで、恐らくモーセとエリヤであろう二人の証人の話を聞きます。

そして、信じることを選び取り、その結果、殉教者として死に、天国で水の上に立っている。

どうして私がこの事に、それほど感動するのか。

別の患難の話を覚えていますか？

弟子たちが湖の上で、うなる風とうねっている波の中で恐れおののいていました。

そこへイエスが、湖の上を歩いてやって来ます。

するとペテロは、

「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。」

(マタイ 14:28)

イエスは「来なさい」と言われた。(マタイ 14:29)

ギリシャ語では、「あなたは、来なさい」

それでペテロは足を踏み出しました。

この話、覚えていますね。

彼は主から目を逸らして沈みかけるまで、湖の上を歩きました。

皆さんに注目して欲しいのは、15章2節のこの人たちは、地上では勝利者とは見られていませんでした。

いわゆる、水の上を歩くスーパーヒーローではなく、迫害され、反キリストとその勢力によって捕えられ、抹殺され、敗者、負け犬と見なされていました。

でも天国では…聞いて下さい！ここ、重要です。

天国では、彼らは勝利者、打ち勝った者とされ、水の上を歩いています。

「それで、何が言いたいのか？」

皆さんはクリスチャンとして、これに関する様々なメッセージを聞いてきたでしょう。

ペテロが水の上を歩いたことについて、良いメッセージもたくさんあります。

でも大抵は、このような傾向に行き着くでしょう。

「ペテロは舟から踏み出した！彼には信仰があったんだ！あなた方は、どうして舟の中にいるのか！舟から出て来い！」
「水の上を歩くのだ！」
「イエスから目を離すな！」

そこで皆さんは、「そうだ！そうだ!!」「そうだ!!!」

「彼は水の上を歩いた！勿論、少しは水に濡れただろう。でも他の者たちは歩かなかった。あなたも舟の中で、乾いたままでいたいのか？それとも、信仰の人になりたいか？」
「舟から一步踏み出せ!!」

こういった類の、ペテロについての熱いメッセージ。

勿論、その中に真理も含まれています。それは分かります。

それでも、こういったメッセージは、大切なポイントを外している、と私は言いたい。

ヤコブやヨハネ、アンデレ、ナタナエルら、舟の中にいた弟子たちは、そこから踏み出す信仰がなかったのでしょうか。

そうではないと思います。

私が思うに、彼らは、自分たちがいるべき場所である舟の中にいたのです。

なぜなら、イエスははっきりと、ペテロに言ったのです。

「ペテロ。あなたは、来なさい。」

これは、ペテロに向けられた言葉で、ペテロのためのものだったのです。

「だからジョン、何が言いたいのか？」

ちょうど今、この町で、ある集会が開かれています。

この宣教師たちが伝えているのは、「舟から出るんだ！」

「どうして車椅子に座っているのか!?!」「どうして病気なんだ!?!」「なぜ貧しいんだ!?!」

「どうして何もしようとしないのか!?!」「どうしたんだ!!」

「なぜじっと座っているんだ!!!」「教会の椅子にただ座ってないで、一步踏み出せ!!!!」

「しっかりしろ!!!」「信じるんだ!!!!」「踏み出せ!!!!!!」

そこで、聞いている人たちは、「ああ、そうだ!!」と言って、中には信仰の一步を踏み出す人もいます。

宣教師が恐らくは善意で、そうしろと言うから。

でもイエスは、そんなことをせよとは言いませんでした。

この手の宣教師たちや集会は…彼らの心は、多分誠実なのでしょう。

しかし、皆さんがキリストの生涯を見ていく中で分かってくるのは、主は誰かと関わる時、それぞれ個別に対処された、ということです。

パウロはこう書いています。

「恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。(ピリピ 2:12)

神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるので
す。」(ピリピ 2:13)

イエスがベテスダの池に行った時、病人がそこら中にいました。

大ぜいの病人、盲人、足のなえた者、やせ衰えた者たちが伏せていた。(ヨハネ 5:3)

みんな、助けが必要でした。

でもイエスは、「信仰を持って立て!!!!」とは言いませんでした。

主は一人の、大勢いる中の一人の男の所に行き、この人に、特別で個人的な働きをされました。

「あなたは、寝床を取り上げて歩きなさい。」

他の人たちについては?

全ての人を癒すのは、主のご計画ではありませんでした。

ほとんどの人を癒すことでも、多くの人や何人かの人を癒すことでもなく、あの日、主のご計画は、一人の男を癒すこと、一人の個人に働くことでした。

「出て来なさい!」「ステージの前をもう一度歩きなさい!!」

「もう1回!!」「もう1回!!!!」「もう1回!!!!!!」「ハレルヤ!!!!」「ハレルヤ!!!!!!」

イエスは、こんなことはしていませんよ、皆さん。

反感を覚えた人には申し訳ないけど、そんなことは、聖書のどこにも書いていません。

では、イエスは何をしたのでしょうか。

実際、イエスの癒しの御業を見ていくと、幾度も出て来るのは、人々を愛し、触れて、話していること。

「行きなさい。誰にも言ってはいけません。」

「これは、あなたと私だけのことです。」

私たちはインチキ話にすっかり取り込まれています。

それをしている人たちは、多分、良い行いのつもりなのでしょう。

もしかしたら、信仰生活の中で、神が彼らに個人的に伝えたことが、全ての人に当てはまると信じているのかもしれない。

しかし、神は個別に働かれます。

「ジョン、どうしてそんなことを心配しているの？」

それは、私が牧師だからです。

この町で行われているこれらの集会が終わって、興奮が収まると、本物の牧師や本物のクリスチャンや助け手たちが後始末をするからです。

車椅子から立ち上がろうとしてできなかった人たちが、「私には信仰がない」とか「神は僕に怒っているんだ」とか「どうしてだろう」などと考え始めます。

預言が成就されなかったり、奇跡が起きなかった時、私たちが彼らの話を聞いて、一つ一つを繋げて元通りに戻す道を一緒に探していくのです。

皆さん、神は癒して下さいます！

私は、癒し主なる神を信じています！

でも、神のタイミングは、私が思うのとは違うのです。

私たちは教えられた通り、病気の人に手を置き、言われた通り、油を塗ります。

信じて祈り、主は、主の目に正しいことを行われると信頼します。

主は、その人を車椅子から立ち上がらせるかもしれませんが、あの人には、車椅子のままで伝道することを望まれるのかもしれませんが。

ところが、このような集会が伝えているのは、“信仰があれば” “一歩踏み出せば” “燃えるような情熱があれば” 奇跡が起こる。

いいえ、それは間違いですよ、皆さん。

「でもジョン、“打たれた傷によって我々は癒された”と書いてない？」

そうです。

私たちは全員癒されます。

但し、その癒しは、今日癒されるかもしれないし、10年後かもしれないし、または天国かもしれないけど、いつか癒される、という認識です。

そしてそのタイミングは、御父のご計画とみこころに依るのです。

15章に出てくるこの人たちは、水の上を歩いています。

地上では、歩きませんでした。

地上では人々から、「奴らを捕まえて殺したぞ！」「奴らの神はどこなんだ！」と言われました。

でも天国では御座の前に立ち、ガラスの水の上を歩いています。

皆さん、大切なことは、それですよ。

私たちはみんな癒されます。

みんな、全てのことから解放されます。

ただそれがいつか分からないだけ。

私は祈り、主に信頼し、主を待ち望みます。

よく聞いて下さい。

この町で集会をしていた人たちの祈り方は、間違っていると思います。

祈りとは…しっかり聞いて！

祈りとは…ここ、よく聞いて！

祈りとは…聞いて下さいよ！

祈りとは、神に命じることではありません。

祈りとは、本分をわきまえて仕えることで、信者が、「主が神であり、私たちは神ではない」「神が主人であり、私たちは仕える者」「私たちが主にあれをしる、これをしると言ったり、命令したりするんじゃない」ということを決定的に理解した時、私たちは主に相談し、主に問題を手渡し、主に信頼して、主を待ち望む。

主が神なのです。

そしてその時が来たら、車椅子を誰も必要としなくなるのを、全ての病がなくなるのを見ます。

でもそのタイミングは、神が各個人に立てられた完璧な計画に依るのであり、主がそれぞれの人に望んでいる個別の状況によって異なるのです。

分かりますか。

とても重要なことです。

つづく

私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。

主のあわれみは尽きないからだ。

それは朝ごとに新しい。

「あなたの真実は力強い。主こそ、私の受ける分です」と私のたましいは言う。

それゆえ、私は主を待ち望む。(哀歌 3:22 - 24)